

娘とミルク イソップ

ある日、お百姓の娘が、ミルクを入れたおけを頭にのせて運んでいました。娘は、わくわくして考えました。

「ミルクを売ったお金で、まず卵を買おう。きっと、三百個は買えるわ。その卵をかえしたら、ひなが、きっと二百五十羽は生まれるわ。そのひなを育てて、にわたりの値段が上がったときに、市場で売ろう。きっと、ずいぶんたくさんのお金になるわ。そのお金で、今年の暮れには、新しいドレスを買おう。それを着てクリスマスのパーティーに出たら、男の子たちはみんな、きっとわたしに結婚を申しこむわ。でもね、わたし、ぜんぶことわってやるの」

娘は、得意になって、頭を反^そらしました。

そのとたん、おけが地面に落ちて、ミルクはぜんぶこぼれてしまいましたとき。

おしまい

村上郁再話

資料『新編世界のむかし話5 東欧・古代編』山室静編著／文元社